令和４年度
第３号

広島市乳幼児教育保育支援センターだより

広島市乳幼児教育保育支援センターは、広島市教育委員会内に設置され、主に公立・私立、幼稚園、保育園、認定こども園等において乳幼児教育・保育に携わる先生方の保育実践の支援等を行い、幼児教育・保育の質の向上に取り組んでいます。今回は、乳幼児期の教育・保育で大切にされていること、地域の子育ての支援について紹介していきたいと思います。

子どもが★心動かされる★環境を見つけると…

砂場面白そう！
遊んでみよう…

大きい山を作ってみたい！
そうだ！土を集めよう！

すぐ、崩れる…
上からトントン固めてみよう

「水をかけると強くなる」って〇〇くんが言っていたよ。

乳幼児期は普段の生活を離れて知識や技能を一方的に与えられて身に付けていくことよりも、**生活や遊びの中で自分の興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して育む**ことが大切な時期です。

乳幼児期の教育・保育では、「環境を通して行う教育及び保育＝『遊び』」を大切にしています。遊びの中で、子どもは自発性をもち、面白いことを見つけ、友達に知らせ、夢中になって遊びこむうちに、十分に体を動かす、友達のよさに気付く、伝える楽しさを味わう、物の性質や仕組みに関心をもつ等、沢山のことを学んでいます。このようにして自分なりに試して分かったことは、自分の生活に取り入れていくようになっていくのです。

乳幼児教育保育アドバイザーによる支援

「子育てオープンスペースでの支援」

【内容】

広島市乳幼児教育保育アドバイザーが、公民館主催の子育てオープンスペースを訪問しました。親子でできるふれあい遊びを一緒に楽しんだ後、参加した保護者同士で語り合う「ミニ座談会」を開きました。座談会では「我が子のかわいい所」について伝え合い、互いの話に共感し合いました。

【乳幼児教育保育アドバイザーの感想より】

広島市HP(※)を見て遠方から参加した親子もいました。参加した子どもと地域の方が触れ合い、温かい雰囲気の中でそれぞれの子どものペースで遊ぶことができました。参加された保護者は、保護者同士で日常の様子などを話す機会をもつことで、子育てを一人で抱え込まず、誰かと話すと気持ちが楽になることを感じていました。

※広島市HP：乳幼児と保護者のための子育て支援情報
（右：二次元コード）

当センターでは、幼児教育や保育に関する専門的な知見や豊富な経験をもった「乳幼児教育保育アドバイザー」を公民館等で定期的に開催される**子育てオープンスペース**等に依頼に応じて派遣し、参加された親子の子育て支援をしています。子育てサークルなどの依頼にも対応できますので、気になる方はご相談ください。

【発行元】
広島市乳幼児教育保育支援センター
〒730-8586
広島市中区国泰寺町一丁目４番21号
広島市教育委員会事務局総務部教育企画課
E-mail：nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp
電話番号：（082）504-2833
Fax 番号：（082）504-2509

★　当センターでは、公立・私立を問わず幼稚園・保育園等の支援をしています。取組等につきましては、ホームページをご覧ください。（右：二次元コード）

☆身近な環境に出かけてみよう☆

地域の園に行ってみよう♪

地域にある園では、園庭を開放した遊び場の提供、未就園児を対象とした遊びの広場の開催、在園児との交流活動などが行われています。

園の先生方と子どもが関わる姿、子どもが身近な素材や材料を使って遊ぶ姿などを見ると、お子さんとの関わり方のヒントになることが見つかります。また、他の参加者と交流すると、子育てに対する気持ちも少し楽になるでしょう。

園庭開放や未就園児を対象とした遊びの広場では、園の先生方に子育ての悩みについて相談できます。まずは、地域にある身近な園を訪ねてみましょう。

（詳細は、各園のＨＰ、市民と市政に掲載される予定等で御確認ください）

地域を散策してみよう♪

子どもを取り巻く全てのことが成長や発達を促す環境です。

身近なものやことに目を留めてみる、納得いくまで関わる、様々な音を聞くなど好奇心をもって周囲の環境と関わる経験を繰り返すと、子どもの興味や関心の幅も広がります。

日頃から慣れ親しみ、安心できる地域を散策し、直接的な経験を通して、様々な感覚を働かせてみましょう。

地域には子どもの心を育む沢山の資源があります。地域の散策を通して、身近な自然物と関わる、季節の変化を感じる、地域の行事やその雰囲気を味わうなどしてみましょう。

いろいろな人と関わりましょう♪

核家族化などにより家庭や地域において人間関係が希薄化し、子どもの人と関わる力は弱まっています。子どもは、人に対する優しさや愛情を人との関わりの中で学んでいます。人に親しみをもって関わる楽しさや、人の役に立つ喜びを味わうことができるように、生活に関係のある色々な人との触れ合いを大切にしていきましょう。また、子どもは信頼する人のものの考え方や行動から学んでいます。家族との関わりも大切にし、親や祖父母など家族の愛情に気づき、家族を大切にしようとする気持ちを育みましょう。

乳幼児教育保育アドバイザーからのメッセージ

「乳幼児期の子どもがいる家庭で大切にしたいこと」について、乳幼児教育保育を専門とされる加納　章先生にお話を伺いました。

「アンビバレント(ambivalent)な感情」

この春、娘夫婦に子どもが生まれたのですが、生まれた瞬間の写真が出産１時間後には手元に届きました。その後も「くしゃみをした！」「ウンチをきばっている」「初めて笑った！」「寝返りが・・・」と逐一写真や動画が送られてきます。そういえば、私自身も子どもの一挙手一投足すべてが愛おしく「すごい！」とビデオに収めていたことを思い出しました。それこそ眠たくてぐずって泣いていることも「かわいい」と許せたものでした。

しかし、そのうちなぜ泣くの？我慢できないの？という感情になったことも思い出しました。生まれてすぐはあれほどかわいいと思えたのに、慣れて日常になってしまうことで、愛おしいという感情が薄れていくような。決して「かわいくなくなった」というわけではないのですが、負の感情が湧き出してくるのでした。

子どもにとってはその日常こそが大事で、当たり前にできることは実は当たり前ではなく、相当なエネルギーを使って生きているのだということを忘れていました。

かわいらしいく愛おしいのに、延々と泣くことに怒りやいらいらした感情が同時に起こったりすることがあります。アンビバレント(ambivalent)な感情といって、相反する感情が同時に起こることです。それは人間誰もが持つ感覚ですので、その状態自体は批判することではありません。冷静になることは簡単ではありませんが、今、自分はそういう状態なのだということだけを意識すると違った景色が広がります。

先にも記しましたが、子どもにとっては泣くことも笑うことも、嫌がることも素直になることも、一生懸命生きるための手立てなのです。それを否定することは、極論、子どもの生きようとすることを否定することになります。単純に「一生懸命頑張っているんだな」と温かく見守りましょう。

とはいうものの、かくいう私もいらいらしたり感情に任せて声を荒げたりしたことがあります。そうならないためには一人ですべてを抱え込まないことです。一人の人間ができることには限界があります。それを超えてやろうとすると無理が生じます。子育てを夫婦や祖父母、地域の方々と共にすることで、子どものことを客観視することもできます。子どもと適切な距離感を保ちつつ、子育てを楽しめる環境を構築していけるといいですね。